第 3 回加賀市ビジョン策定委員会議事録

1　開会

2-（1）第 2 回策定委員会の振り返り
前回の策定委員会の議事録を確認し、その内容について承認を得た。

2-（2）加賀市ビジョン素案について
加賀市ビジョン素案について、資料を基に説明した。（資料３）
★メッセージ（3 ページ）
【山口委員】
●「住民一人ひとりが今よりもっと幸せを実感できる、「元気を生み、健やかさを保ち、幸せを実感するまちへ」」について、同じ「幸せを実感する」という文言が 2 行に渡って重複していることに違和感を覚えた。
事務局回答：ご指摘いただいた箇所については、「もっと住民が幸せな加賀市へ」と、サブタイトルのような意味合いで、「元気を生み健やかさを保ち幸せを実感するまち」を目指していくという形で修正を行う。

【嶽野委員】
●「ウェルビーイング」について、市民目線では分かりにくいのではないか。
事務局回答：「ウェルビーイング」について、意味が伝わりやすくなるよう修正を検討する。

【山田委員】
●加賀市の強みを生かして、財政を持続させていくということを記載したらどうか。
事務局回答：いただいた意見を踏まえて文言の調整を行いたい。

【増野委員】
●人口減少や少子高齢化などの課題について、「全国的に」と記載すると、他人事のような印象を受ける。加賀市のビジョンなので、加賀市の問題ということを分かるような表現にした方が良いと思う。
事務局回答：加賀市の問題ということが伝わるように表現を工夫する。

【下口委員】
●記載順として、まず加賀市の強みを記載してから、その後で課題を記載した方がいいのではないか。また、加賀市の強みの記載を増やした方が良いと思う。
事務局回答：記載順について修正を検討する。具体的な強みの列記については今後調整を行う。

★ビジョン策定の趣旨と役割（4 ページ・5 ページ）
【意見なし】

★理念体系（6 ページ）
【髙山委員】
●文字が見えにくいので、補色をうまく使って見やすくした方が良い。
事務局回答：実際のビジョンに落とし込む際には、分かりやすいイラストを意識する。

★基本理念（政策の柱）（7 ページ）
【委員長】
●「ウェルビーイング」という言葉の取り扱いに統一性を持たせた方が良いのではないか。
事務局回答：統一性を持たせる。

【山口委員】
●「意味するもの」のところに具体的な将来像を記載しているなかで、あえて「ウェルビーイング」という一般的な言葉まで記載する必要があるか、皆さんの意見を聞きたい。
【加藤委員】
●幸せな姿について細かく記載があるので、「ウェルビーイング」については記載不要だと思う。
【増野委員】
●「ウェルビーイング」について、大きなメッセージがあって、その説明を記載しているなら理解できるが、現状では記載不要かもしれない。
【委員長】
●個人的な意見として、メッセージ（3 ページ）に「ウェルビーイング」の記載を入れているのであれば、このページには「ウェルビーイング」の記載は不要かと思う。
事務局回答：頂いた意見を踏まえて、「ウェルビーイング」の記載の有無について検討する。

【髙山委員】
●メッセージ（3 ページ）で「ウェルビーイング」の内容について分かりやすく記載をすれば、このページでは記載しなくても良いと思う。
【山口委員】
●文面について、資料に記載のとおり箇条書きでビジョンに掲載するのか、文章にして記載するのか。
事務局回答：「意味するもの」に記載の文面をビジョンに掲載するかは全体のバランスを見ながら判断したい。ここに記載している文言については、このようなことで伝えていきたい。

【山口委員】
●箇条書きではなく、文章になるのだったら違和感はないが、「加賀市に住む人が今だけでなく」の「今だけでなく」について記載不要ではないか。
●「若者から暮らす場所として選ばれるまち」について、「暮らす場所」だけでなく、「働く場所」も追加したらどうか。
事務局回答：「今だけでなく」については、将来だけでなく、今も大事ということを強調させるために記載している。皆さんから意見をいただきたい。
「働く場所」については追加する方向で検討する。

【山口委員】
●「加賀市に住む人が、今だけでなく将来にわたって幸せを実感できるまち」について、今を大切にすることはもちろん、将来にわたって幸せを実感できるという、その辺りの文言を考えていただきたい。
事務局回答：頂いた意見を踏まえて検討する。

【髙山委員】
●「将来」をどの程度先の話を想定するかが大事だと思う。5 年先を想定するなら、「今だけでなく」は記載不要だと思うが、さらに先の未来を想定するなら、「今だけでなく」を記載したほうが良いと思う。人それぞれ捉え方が異なると思うので、最初のメッセージのところで、「将来」が何年先を想定しているかを分かるように記載した方が良いと思う。
事務局回答：「もっと住民が幸せな加賀市へ」については、5 年後よりも更に先の未来のことも想定している。表現の仕方については検討する。

【山口委員】
●「子や孫の世代とともに安心して暮らし続けることができるまち」について、高齢者向けの将来像に感じた。高齢者に絞るのではなく、対象を広げる言葉を主語にした方が良いと思う。

事務局回答：「子や孫の世代まで安心して暮らせる」という表現に修正したい。

★基本理念（政策の柱）（8 ページ）

【意見なし】

★基本理念（政策の柱）（9 ページ）

【山口委員】

●「人に加え、花や緑、里山、海岸などの自然環境の健やかさを育む。」の「人に加え」の部分が文章として難しい印象を受けた。

事務局回答：「健やかさを保つ」は人のみが対象のイメージを持たれると思うが、人だけでなく自然環境等も対象にするということを強調させるために、あえて「人に加え」を入れた。

【髙山委員】

●「里山、里海」という言葉が一般的だと思うが、「里山、里海」ではなく、「里山、海岸」にしたのは、加賀市の海岸は里海ではないという認識か。

事務局回答：「加賀海岸」のイメージを強調するために、あえて「海岸」という表現にしたが、「里海」に変更することも検討したい。

【山口委員】

●自然環境には、「柴山潟」が含まれるというイメージはしっかり持っている。「健やかさ」の意味には「育む」だけでなく、「育み、地域皆で守っていく」といった意味合いも含まれるのか。

事務局回答：「育む」のなかに、守り育てていくという意味合いも込めている。海岸の表現については、「柴山潟」なども含められるような表現を検討したい。

★基本理念（政策の柱）（10 ページ）

【山口委員】

●8 ページと 9 ページで記載してあることが、重複して書いてある印象を受ける。このままの文面を記載することは難しいと思うので、議論が必要。

事務局回答：「幸せを実感する」はそのままのとおりの意味であるが、8 ページ、9 ページで記載していることと同じ意味合いを持たせようとしたため、やや重複した印象を受けると思う。次の段階では、絵も加えたところで、どのようにして文字に落とし込むかというのを確認していただきたいと思っている。

★政策実現の姿勢（11 ページ・12 ページ）

【山口委員】

●「未来に挑戦する」を先に記載して、その次に「過去から学ぶ」を記載する順番に違和感を感じる。

【髙山委員】

●過去から学び、未来に挑戦するというのが、普通の市政運営だと思う。また、11 ページと 12 ページの記載文について、1 項目目と 2 項目目の文末表現が統一されていないので、どちらかの書き方に合わせた方がよい。

事務局回答：「未来に挑戦する」と「過去から学ぶ」の順番の入れ替えや、文章表現の統一を調整していきたいと思う。

【山口委員】

●「未来に挑戦する」について、新産業などの先端的な取組を進めたいという産業に関することは分かるが、市民に向けた効果や言葉が見えなかった。新産業などを取り入れることによって、市民サービスが向上し、安心安全なで暮らしやすい社会に繋がるというような、「人」に焦点を当てた項目が、「未来に挑戦する」の中に含まれているのかが分からなか

った。

事務局回答：理念体系図にも記載はあるが、「未来を担う人材育成」のように、「人」に焦点を当てた項目はある。過去に関する項目と未来に関する項目を厳密に振り分けることは考えていないが、「未来に挑戦する」という言葉には、新しい物事にどんどんチャレンジしていきたいという思いが込められているので、「人」に関する内容も、ビジョンの中には落とし込んでいきたいと思う。また、この「未来に挑戦する」と「過去から学ぶ」という言葉は、これからこのビジョンを推進していくための姿勢だという理解をいただければと思う。

★山頂に導く道標(視点)（13 ページ～16 ページ）

「①地域資源の価値を高めます」（13 ページ）について

【髙山委員】

●「歴史文化」という記載があるが、文化といっても伝統文化や食文化など様々な概念があり、それをすべて包含したうえで「文化」という言葉でこのビジョンでは使っているはず。そうでなければ、同ページの重点テーマに記載がある「地域の歴史・文化資産と伝統芸能」の部分のイメージがつきにくいと思うので、「歴史文化」を「歴史・文化」と修正した方が良いと思う。

事務局回答：歴史や文化という部分は非常に強く強調している部分なので、そういった思いを込めた見せ方ができるような調整を行いたい。

【山口委員】

●観光という観点は、この視点の中に含まれると思うので、重点テーマのうち「地域資源を磨き上げ、観光客を誘致し、地域の活性化を図ります」の中に、温泉を利用した新たな観光の創造という意味も含んでいいのかなと思う。ただ、この重点テーマの中に温泉という言葉が入っていないので、3 温泉という地域資源については、重点テーマのうちどの部分に含まれるのか伺いたい。

事務局回答：観光という要素は、地域資源の磨き上げの中にはもちろん含まれるが、加賀市の基幹産業としての観光業として、次のページの「地域の活力を育みます」にも意味合いとしては含まれている。温泉という要素も地域資源の磨き上げの中に当然含まれているが、この分野は、前回委員からの意見にもあった大聖寺十万石などの歴史的な部分を磨き上げ、観光や活性化につなげていきたいという思いが主としてある。ただ、重点テーマの 3 つ目と 4 つ目の中に記載があるインバウンドや体験型観光については、温泉を中心としながらも、坂網猟などの伝統文化のほか、スポーツ、自然などを組み合わせながら魅力的な付加価値向上を図っていきたいという思いがある。

【山口委員】

●説明はとても理解できたが、温泉というワードがどこにも出てこないというのはやはり不自然だと感じた。

事務局回答：温泉という要素が見えないという指摘はごもっともだと思うので、イメージをしやすいような調整を行いたい。

【委員長】

●委員の皆さんは各業界の代表者などを務めているので、ある程度詳しい内容まで理解できるが、タウンミーティングやパブリックコメントにて意見を求めるときは、市民目線になって行わなければならないので、より丁寧に内容が分かるような書き方を、事務局にはお願いしたい。

【辻委員】

●重点テーマの 1 つ目に「地域の歴史・文化資産と伝統芸能を守り」と記載があるが、この書き方だと伝統産業は守っていかないように見えてしまうので、「伝統産業・芸能」のよ

うな書き方をしてほしい。

事務局回答：次ページの「地域の活力を育みます」の視点にて、伝統産業を含めた「地域産業」として盛り込んでいる。

【委員長】

●一般の市民がその趣旨を理解して咀嚼してくれるかが大事。

事務局回答：今いただいた意見を落とし込みながら、次回に提示したい。

【山田委員】

●重点テーマの 2 つ目で「駅周辺を中心としたにぎわい」とある。自分は田園風景が好きなのだが、駅周辺でどのようなにぎわいを創出したいと考えているのかを教えてほしい。

事務局回答：例えば加賀温泉駅だと、今後駅の南側の開発が予定されている。委員が想像する田園風景とは反対のイメージになってしまうが、駅は人が多く集まる玄関口としての役割を果たすので、駅を中心としてその周辺で人が集まれる仕掛けは必要になるだろうという思いがある。ただ、駅がある場所に限らず、各地域にはそれぞれの特色があるので、それらを生かして賑わいや交流を創出したいと考えている。

【山田委員】

●農業、漁業、林業などの一次産業も加賀市にとって素晴らしい資源だと思うが、あまり内容に盛り込めていないように見えるので、市民に説明できる形で示してほしい。

事務局回答：市民に分かりやすい形で表現したい。また、次ページに記載がある「地域産業」の中には、農業などの一次産業も落とし込むイメージで進めている。

【田向委員】

●パブリックコメントを行う際には、本日の資料の中にある参考資料も公に公開されるのか。

事務局回答：委員会自体も公開で行っているので、資料についても HP にて公表している。パブリックコメントでは、参考資料としての添付も考えていきたい。

【田向委員】

●「駅周辺を中心としたにぎわい」には、どこか特定の駅のこととは書かれてはいないが、一般の人が見たら恐らく加賀温泉駅のことを想像すると思う。加賀温泉駅南側エリアの開発には様々な意見があると思うが、このビジョンを表に出すことによって、加賀温泉駅前の開発を推進するというメッセージを出すことになると思う。パブリックコメントではそれについて多くの意見が寄せられると思うが、このビジョンは推進の方針で行くということでよろしいか。

事務局回答：加賀温泉駅南側エリアの開発については、従前から話が出てきているもので、これまでも議会を通じて説明させていただいた内容を加味して、案の中の一つとして提示している。ただ、その内容が中心と見えるかもしれないが、大聖寺駅や動橋駅の賑わい創出にも取り組んでいるため、そこも意識した書き方となっている。

「②地域の活力を育みます」（14 ページ）について

【山口委員】

●重点テーマ 3 つ目の「外出しやすい環境」という表現について、参考資料の概要では子どもや高齢者など、移動が制限されている人に向けた言葉だと分かるが、テーマの文言だけではそれが伝わりにくいので、より丁寧な表現をした方がよいと思う。

事務局回答：この文言だけで見せることはないとは思うが、分かりやすく伝えるということを改めて意識しながら内容を調整し、次回ご提示したい。

【髙山委員】

●重点テーマ 3 つ目について、「既存の交通手段」と書くと自家用車、電車、バス、自転車、

ライドシェアなどのあらゆる交通手段を含むことになるが、これら全てを活用するというイメージでよいか。移動手段が限られている人たちをイメージしているなら、「既存の公共交通」という書き方にしないといけないと思うが、どう考えるか。

事務局回答：このテーマでは、移動手段が限られている人たちを想定しているので、書き方は再度検討する。

【岡田委員】

●視点の説明文にある「交通の利便性を高めるとともに、地域コミュニティのつながりを育み」という部分について、前段と後段がどのように繋がるのかが疑問に思ったので、また精査してほしい。

事務局回答：移動に制限がかかるとコミュニティの繋がりにいけないのではないかという思いから、こういう記載になったが、この文言だけでは伝わらないという指摘はごもっともだと思うので、このメッセージをできるだけ伝えられるような表現の仕方を検討したい。

「③子ども・若者の学びと成長を支えます」（15 ページ）について

【山口委員】

●重点テーマ 3 つ目の「就職・結婚・出産等の様々なライフデザイン」という記載について、就職・結婚・出産という順番をなぞった書き方が、あるべき人生設計がこういうものだと書かれているように見えて気になった。ライフデザインとは、それぞれが自分らしく生きていけるような学びや選択ができ、それぞれの人生をイメージしたものを描くというものなので、「就職・結婚・出産等の様々な」という文言は削除し、「自分らしい」という書き方にした方がよいのではないか。

事務局回答：いただいたご指摘を踏まえたうえで、他部局にも確認しながら、固定概念に捉えられる表現にならないような書き方を考えたい。

【山口委員】

●重点テーマ 1 つ目の「加賀市教育ビジョン「BE THE PLAYER」を確実に推進します」について、ここだけ「確実に」と記載されているが、必要な記載なのか、どういう意図で書いたのか気になった。また、重点テーマ 2 つ目の「こどもと大人が共に育つ、「こどもまんなか」のまちづくりを推進します」について、最初の「こども」という表記が、こどもまんなか」という言葉に引っ張られてひらがな表記になっているのかなと感じた。他の箇所では「子ども」と記載されているので、書き方を統一してはどうか。

事務局：「確実に」という記載については、教育委員会の強い思いを反映したものとなっているが、ご指摘のとおり、それを言い出したら全てにこの文言が必要になる。全体のバランスもあるので、必要に応じて調整を行いたい。また、「こども」の表記についても確認の上、修正したい。

【増野委員】

●「BE THE PLAYER」や「こどもまんなか」のような言葉は、子どもがいる家庭など、特定の層には分かるものだとは思うが、その他の人にどのように説明していくかが大事。重点テーマの概要一覧があると分かりやすいと感じたので、このような工夫をすることで、多くの人に知ってもらえるようにしていただきたい。

事務局回答：説明の内容を細かくしすぎると役所的で分かりにくくなってしまう可能性はあるが、説明用の資料で文言の内容を押さえるということを検討したい。

【山口委員】

●全国的に学生の地域移行という大きな問題があり、加賀市では交通手段などの課題によってその推進が滞っているように見える中で、本日の参考資料である重点テーマの概要説明にて「放課後においても子供主体の学びの場を広げる」という記載があり、少し救われたような気がしたが、これはあくまで参考資料内だけの記載であり、ビジョン本体には出て

こないという認識でよいか。

事務局回答：ビジョンの中に概要まで記載すると、内容が細かくなりきりがなくなってしまう。ただ、市が定める条例の各条文の解説のように、文字だけでは分かりにくい表現を説明用の資料に落とし込むという方法もあるので、そういった形を含めて、分かりやすく内容を伝えられる形を考えたい。

【山口委員】

●参考資料では、若者の教育や子育て、居場所という言葉が明記されてるので、実際の重点テーマの中にも「居場所」という言葉が入ってくればいいなと思った。

事務局回答：どの部分を強調してビジョンで見せるかというところもある。若者の居場所についての内容は、「BE THE PLAYER」の中に含まれているので、全体のバランスを見ながら調整を行いたい。

「④暮らしの安心安全を支えます」（16 ページ）について

【山口委員】

●暮らしの安全というものの対象については基本は市民だと思うが、そこから派生して、観光都市である加賀市として、観光客を対象とした安心安全の提供といったように、観光の側面と結びつけることはできないか。

事務局回答：重点テーマは、単独の視点を意識するものや他のテーマを意識してかけ合わせたうえで具体的な取組を行うものもあるため、先ほど出てきた観光誘客という視点のテーマとかけ合わせたものができればよいと思う。

【山口委員】

●参考資料の No.5 と No.6 の概要について、2 行目に「人口減少や施設の老朽化」という同じ単語が出てきているのが気になった。

事務局回答：公共施設という言葉には、道路や水道といったインフラ的な施設も含まれているが、今回はそういったインフラ的な整備をしっかりやっていくという意味を込めて、No.5 と No.6 を分けているということが前提としてある。No.6 の内容は、どちらかというと建物をある程度うまく利活用していこうということで意味分けしているので、若干考え方は重複するところがあるが、それぞれの視点の中で取り組みたいと考えている。

その他内容についての意見があれば、9 月 8 日（火）までに事務局まで連絡をいただきたい旨、事務局より案内した。

★市政運営の原則（17 ページ）・ビジョンの実現に向けて（18 ページ）

【田中委員】

●ビジョンの進捗や成果の確認をどのような形で、いつ頃行うことを予定しているのか。

事務局回答：仮に 10 月下旬に委員会から答申を受けたとしたら、ビジョン自体ができるのは秋ごろになる見込み。その後、ビジョンに沿った施策を予算編成の中で示していくので、どうしても来年度の施策に向けての反映というところを意識していくことになる。そのため、進捗管理の具体的な方法については来年度で考えていく形になるかと考えている。

【岡田委員】

●ビジョンの策定に当たって、その地域の当事者の人らの考えや思いを現段階でどれだけ反映できているのか。

事務局回答：タウンミーティングやデジタル目安箱でいただいた、身近な意見や様々な提案を集約し、重点テーマの中などの中に、意識して組み込んでいる。ただ、その内容が全てではないということは事務局でも思っているところで、そういったことを含めてこの場で案を提示し、皆さんからご意見をいただき、審議してい

ただきたいと思っている。

【岡田委員】

●地域の当事者やキーマンの考えや思いを組み込んだうえでビジョンを作った方が具体的で早く出来上がると思うが、住民一人一人が地域の担い手になるということが重要だと思うので、それを考慮したビジョンづくりを進めてほしい。

事務局回答：一人ひとりという視点での意見もいただきたいと思っている。キーマンがいるような地域ではその人から意見をいただくのも一つの手だと思うし、市長自らがそういう場でお話し、いただいたご意見はビジョンに組み込んでいきたい。また、本委員会にも各業界の関係団体の代表として出席いただいている方もいらっしゃるので、そこからも広く意見をいただけたらありがたい。

【山口委員】

●今回の会議で出た内容を精査した資料を、次回の会議(10 月 1 日（木）)にてもう一度議論し、その後パブリックコメントを行い、10 月下旬に答申を行うという予定だが、タウンミーティングやパブリックコメントの結果はどのような形で表現されることになるのか。

事務局回答：次回の会議では、今回いただいた意見を踏まえて、実際の素案として絵も含めたイメージを提示するので、それについてご意見をいただきたい。その結果を踏まえ、一定期間を設けた意見公募を行い、その後、そこで出た意見などについて委員の皆様にも提示しながら、直接反映するものと、直接的ではないがビジョンの考え方の中に反映させるものなどの整理や、落とし込めないような意見についてどうするかなどの議論を、10 月下旬の委員会で行いたいと思う。

３　その他

４　閉会

事務局からの事務連絡